

学校だより

令和8年1月8日(木) 第9号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>



正確な情報

校長 細井 博幸



新年明けましておめでとうございます。今年一年が、皆様にとって、輝かしい実り多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新たな年を迎える教職員一同、気持ち新たに全力で教育活動に取り組んでまいります。本年も引き続き御支援、御協力をお願ひいたします。

さて、今年は令和8年、丙午（ひのえうま）の年です。60年に一度巡ってくる丙午の迷信については、年末年始の各種報道番組等で何度も取り上げられていました。迷信とは、科学的根拠はないものの、幸運や不運をもたらすと信じられている非合理的な言い伝えや信仰のことです。丙午の迷信とは、この年に生まれた女性は、「気性が激しく、夫の命を縮める。」「嫁ぎ先に災いをもらたす。」などという現代では不条理な差別といわれるものです。こうした迷信が生まれたきっかけは年末の第76回NHK紅白歌合戦で坂本冬美さんが歌った「夜桜お七」という曲のお七のモチーフとなった八百屋お七と言われています。八百屋お七は、1666年の丙午生まれ（諸説あり）。1682年に江戸で発生した天和の大火でお七の八百屋は焼け落ち、家族とお寺に避難することとなります。そこで出会った小姓（住職の身の周りの世話をする少年）と恋に落ちますが、八百屋が再建されお寺から離れることに。小姓のことが忘れられない八百屋お七は、再び火事になればお寺に戻れると、再建した自宅に放火し、その罪で火あぶりの刑に処されたという話です。この話を井原西鶴が「好色五人女」にて取り上げたことで、以降、歌舞伎や文楽として盛んに上演され、丙午の年に生まれた女性は気性が激しいということが庶民に広まっていったのです。さらに、丙午の年に生まれた女性に関する性格や運勢が、今でいうフェイクニュースといった形で様々な浮世草子や戯作、川柳などで取り上げられたことで、八百屋お七が生まれた次の丙午となる1726年には、丙午の年に生まれた女性との婚姻を嫌うという差別が出来上がり、さらに丙午には女児を生むことを避ける事態に発展してしまったのです。今から360年前を発端としたフェイクニュースは、なんと300年後の1966年の昭和の丙午に、出生数が前年の1/4も減少する最も大きな影響を与えることとなりました。私たちの身の周りでも、SNSによるフェイクニュース、相手を貶めるための噂話が絶えません。AIもより一層身近になりましたが、必ず「AIで生成されたコンテンツは誤りを含む可能性があります。」との文言が付されています。無数の情報を手元で確認できる時代だからこそ、丙午の出生数低下のようなことは起きにくいと言えますが、個人への名誉棄損や人権侵害は繰り返されています。本校の目指す生徒像「自ら 切り拓く生徒」には、「他者の考え方や立場を理解し、自分の考え方を正確に伝え、協力・協働できる生徒」という言葉が付け加えられています。面白さよりも他者の考え方や立場を大切に、そして自分の考え方を正確に伝えるとともに、正確な情報で確かめられる西原中生であって欲しいと願っています。

しかし、迷信には、先人の知恵、戒めや教訓、文化や信仰を含み、不安の軽減、精神的な安定、自己効力感の向上をもたらす効果もあります。1月2日は、3cmの積雪があり、久々の銀世界となりました。「雪は幸運の訪れる象徴」と真っ白で清らかな雪が幸運を運んでくると言われています。気持ちがポジティブになるような迷信は大切に、心を元気に過ごしたいものです。

令和8年もどうぞよろしくお願ひいたします。